

「効率賃金仮説 - 仕事をサボる代償は？」\*

ポイント

- (理論) モラルハザード
- (現象) 賃金水準と失業

内容

参考文献

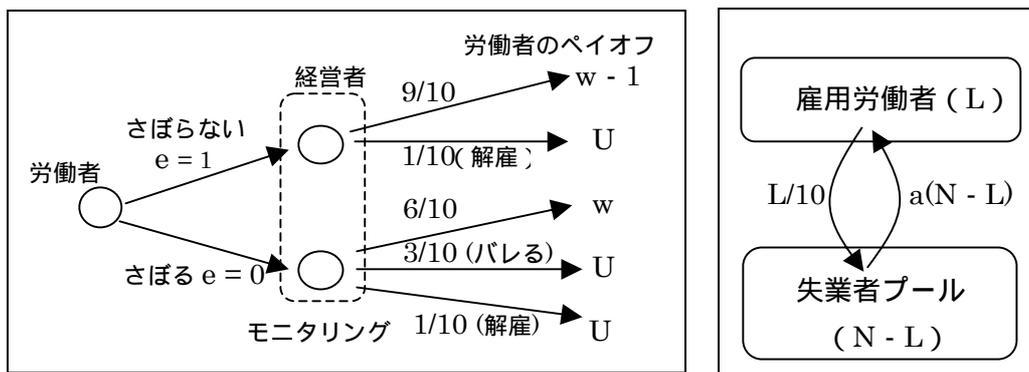
Shapiro, C and E. Stiglitz (1984) "Equilibrium Unemployment as a Worker Discipline Device," *American Economic Review* 74,433-444.

賃金設定ゲーム

(仮定)

- 1) 労働人口  $N$
- 2) 失業中の期待所得  $U = a(\bar{w} + \alpha) + (1 - a)\bar{w}$ , 再雇用確率  $a$   
再雇用されても, はじめは仮採用のため, 賃金水準  $\bar{w} + \alpha$  ( $> 0$ ) と仮定
- 3) さぼっていることが判明する確率  $3/10$ , (その他の) 解雇確率  $1/10$

- ・プレイヤー: (怠惰な) 労働者, 経営者
- ・戦略: 労働者 - (さぼらない  $e=1$ , さぼる  $e=0$ ), 経営者 - 賃金水準  $w$
- ・ペイオフ: 労働者 - 効用  $u = w - e$ , 経営者 - 利潤



- (労働者) ・さぼらない場合 ( $e=1$ ) : 期待効用  $V^N = (9/10)(w-1) + (1/10)U$   
 ・さぼる場合 ( $e=0$ ) : 期待効用  $V^S = (6/10)w + (4/10)U$

- (経営者) 労働者にさぼらせない条件 :  $V^N \geq V^S$   
 (計算結果)  $w \geq U + 3$  (Uの式を代入)  $w \geq \bar{w} + 3 + a\alpha \dots (1)$

[均衡] ・解雇-再雇用均衡条件： $L/10 = a(N - L)$

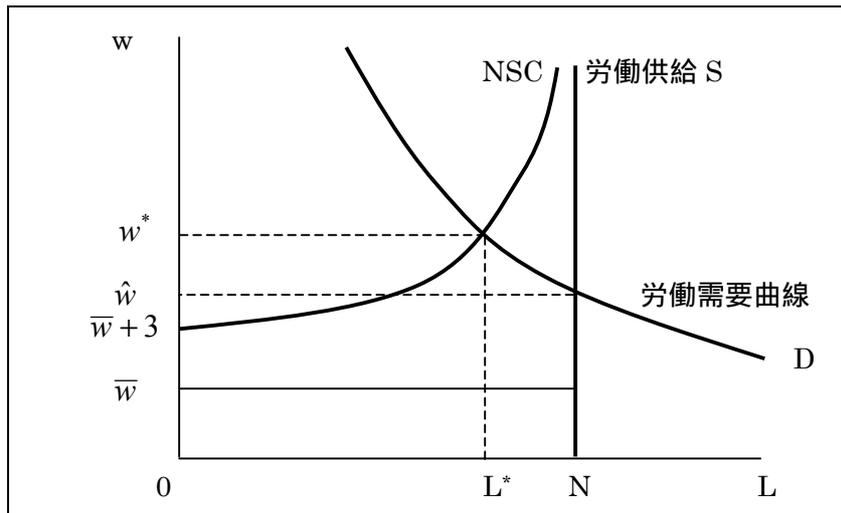
$$(1) \text{に代入 } w \geq \bar{w} + 3 + \frac{\alpha L}{10(N - L)} \quad (\text{労働者にさぼらせない条件=NSC})$$

・経営者の利潤最大化条件：

I: 労働需要曲線

II: NSC の中でもっとも低い賃金を設定 (“ = ” の条件)

労働市場



分析

労働市場

・「失業なし」の状態：労働供給  $N$  がすべて雇用される

賃金  $\hat{w}$  , 雇用労働者  $L = N$  (完全雇用)

・「さぼる」インセンティブをもつ労働者の存在 (モラルハザードの存在)

経営者は “労働者にさぼらせない” 賃金設定をする

(結果) 賃金  $w^*$  ( $> \hat{w}$ ) , 雇用労働者  $L = L^*$  , 失業者  $N - L^*$

まとめ

・失業

・モラルハザードと資源配分